

分科会 I 群 ※タイトルはすべて仮題です。内容や出演者は変更することがあります

I 群・II 群から1つずつ、受講希望のプログラムを事前にご登録いただけます（フォーラム参加申込時）。定員に達した分科会は参加券がないと入場できませんのでご注意ください

I-A 「七転び八起き」の支援～精神障害者の就労支援で困ったことや乗り越え方を共有しよう～

仲地宗幸（株式会社NSP 専務取締役／キングコング サービス管理責任者／作業療法士） 高橋章郎（NPO 法人ルーツ・ユアセルフ／作業療法士）

座長：萩原喜茂（一般社団法人日本作業療法士協会 副会長）

精神障害のある方は、気分が波があるうえに考えが理解しにくいのでかわりづらという声を耳にします。しかし、しっかりした見立てとかわりができると関係性が築け、症状も安定し、作業にも集中できるようになります。この分科会では、統合失調症とうつ病について、症状や疲れにどう対処するか、就労支援を行ううえで必要な危機管理等も含めて、支援者が困ってしまうこととその乗り越え方を、具体的な事例を通して共有したいと思います。

I-I 「どの事業からも一般就労実現を～ローカルネットワークの取り組み～」

黒木秀幸（西部ガス絆結株式会社 障がい者就労支援事業所 ワークオフィス絆結管理者） 佐藤有佳里（NPO 法人SOCIAL DESIGN WORKS 副代表理事）

座長：平田和也（合同会社G&G 代表）

全国障害者就労支援ローカルネットワークは、「どの事業からも就職に送り出す」ことを強みとする団体です。今回の分科会においては、当団体に加盟する法人の当事者の「働きたい」という思いの実現に向けたさまざまな試行錯誤を紹介しつつ、現場の支援、定着支援、就労して数年後の利用者の現状や課題をフロアとともにセッションを行いながら、今後の就労系障害福祉サービスが一般就労に向けて果たすべきことをともに考えていきたいと思います。

I-U 「軽作業は低賃」は事実か？～既成概念を打ち破れ！～

中矢誠一（株式会社kakeru） 藏座弘志（NPO 法人菜） 竹村利道（日本財団公益事業部 国内事業開発チーム チームリーダー）

座長：廣瀬正典（日本財団公益事業部 国内事業開発チーム）

障害者は軽作業しかできないから低賃——。「軽作業しかできない」は事実ではないということが実証されてきましたが、「軽作業が低賃」であることは既成の事実として定着しています。確かに軽作業しかできない方もいるなかで、これはまったくどうしようもない事実だとあきらめが蔓延しています。しかし、あらためて根本的に見直してみると意外なほど身近に常識を覆す作業があることが見えてきました。このプログラムでは熊本と鳥取で展開される「軽作業で高賃」の業務を知り、まだまだ限界ではないことをしっかり学びたいと思っています。

I-E 「働きづらさ」を抱える人たちへの就労支援～ユニバーサル就労のすすめ～

三好泰枝（株式会社東海道シグマ 生活困窮者就労支援チーム 統括責任者） 宮本太郎（中央大学 教授）

座長：池田 徹（社会福祉法人生活クラブ風の村 理事長）

ユニバーサル就労は、障害者に限らず働く場を見つけることが難しい人びとを職場に迎え入れる仕組みとして、「生活クラブ風の村」が生み育ててきたものですが、今年2月、富士市でユニバーサル就労推進条例が制定され、ユニバーサル就労支援センターが設置されました。また、宮本太郎教授は、近著『共生保障』で、共生型社会を創っていくうえでユニバーサル就労の視点が重要と指摘します。当分科会では、ユニバーサル就労の可能性と課題を幅広く議論します。

I-O 「働きたい高次脳機能障害者」への支援～医療から就労移行、定着支援へ～

平野 彩（医療法人社団永生会 永生クリニック） 山田京子（NPO 法人高次脳機能障害サポートネットひろしま）

座長：野々垣睦美（NPO 法人脳外傷友の会ナナ クラブハウスすてっぶなな）

働いていた人がある日突然、高次脳機能障害になったとしたら……「仕事に戻りたい、戻らなければいけない」という思いを抱きながら日々を過ごしている当事者・家族に、支援者としてできることはなんだろうか？ほかの施設はどうしているのかな？と感じている人も多いのではないのでしょうか。今回は、よりよい支援を探りながら試行錯誤を続ける「医療機関」「就労移行支援事業所」「障害者自立生活アシスタント」が働きたい高次脳機能障害者へどのように関わっているのか紹介します。

I-Ka 「病院から地域へ就労へ切れ目のない支援の実践」

小成祐介（社団医療法人新和会 宮古山口病院 地域生活支援室 室長） 小林和信（社会福祉法人若竹会 宮古圏域チャレンジド就労・生活支援センター 主任就業ワーカー）

太田博美（アンドーコーポレーション株式会社 教育担当課長 サービストレーナー） 座長：末安民生（一般社団法人日本精神科看護協会 会長）

2018年4月より精神障害者雇用義務化がスタートします。これまで、障害がある方たちの雇用の場として、障害者本人とともに支援者、企業は努力を続けてきました。この制度改正により、就労に向けた活動がより活性化することを期待しています。今回は、精神科病院入院中に退院調整プログラムに参加し、多機能事業所の就労訓練を経て一般就労をしたケースを紹介。入院から退院、就労までの経過にかかわった精神科病院と地域支援者による切れ目のない支援の実践を報告します。

I-Ki 「基幹相談支援センターが実施する就労支援の実際～相談支援専門員と就労支援機関の連携～」

鈴木陽一郎（とよはし総合相談支援センター 統括相談員） 座長：鈴木康仁（蒲郡市障がい者支援センター センター長）

基幹相談支援センターは、4つの業務（①総合相談・専門相談、②権利擁護・虐待防止、③地域移行・地域定着、④地域の相談支援体制の強化と取り組み）を地域の実情に応じて実施するとされています。その基幹相談支援センターが就労移行支援事業所等の就労支援機関との連携により障害のある人の就労定着支援をどのように実施しているのかについて、愛知県豊橋市と愛知県蒲郡市の実践と課題を明らかにして紹介します。

分科会 II 群 ※タイトルはすべて仮題です。内容や出演者は変更することがあります

I 群・II 群から1つずつ、受講希望のプログラムを事前にご登録いただけます(フォーラム参加申込時)。定員に達した分科会は参加券がないと入場できませんのでご注意ください

II-ク 「七転び八起きの支援～それは障害それとも？一見なんでもできそうな方に対する見立てと手立て～」

平田藍子(NPO 法人那須フロンティア 就労支援事業所 喫茶店「ホリデー」作業療法士) 山口理貴(非営利活動団体TSUBAKIYA 代表/作業療法士)
座長: 荻原喜茂(一般社団法人日本作業療法士協会 副会長)

最近、受け答えもはっきりし、一見なんでもできそうなのに、なかなか就労支援が進まない方が増えてきている印象があります。事業所に来所した動機もたんに「親から行くように言われたので」と、あまり自分のこととして捉えていない人。年齢に見合った社会経験が乏しい人。就労が現実的になると後退してしまう人。どうも今までとは異なる対応が必要な人の見立てと手立てをどのようにしていくかについて共有したいと思います。

II-ケ 「共同受注の新たな取り組み～優先調達推進法をどう活かすか！～」

山内民興(社会福祉法人ぶろぼの 理事長) 座長: 城 貴志(NPO 法人滋賀県社会就労事業振興センター センター長)

共同受注から仕事を提供する振興センターが各地にあります。果たして成果が十分と言えるでしょうか？奈良で始まった“あたらしい・はたらくを・つくる”をめざす「あたく組」の実践が注目を浴びています。優先調達推進法を最大限活かし、共同受注促進を図るとともに、必要に応じて共同体を構築し担当マネージャーを配置し、事業の進捗管理を行う、さらには蓄積したノウハウを活用して新商品等の開発を行うなどユニークな取り組みです。この活動を通して共同受注のあり方について考えます。

II-コ 「発達障害者就労支援～試行錯誤のアプローチの数々～」

恒吉麻実子(株式会社LITALICO LITALICO ワークス事業部 ヒューマンリソースグループ) 木内寛長(株式会社エンラボ 臨床心理士)
座長: 金納健次郎(株式会社エンラボ 代表取締役)

発達凸凹のある方々は、社会性、想像性、コミュニケーションの3つ組の障害だけでなく、感覚と感情に極端さやまとまりのなさを抱えており、私たちが感じているものとはまた違った世界観のなかで日々を過ごしています。また一人ひとりの特性の凸凹に違いが多いため、就労支援の現場では職場環境へのアプローチが重要な要素となり得ます。今回はさまざまなアプローチの試行錯誤を元にディスカッションを行い、発達凸凹を抱える方への支援ノウハウの広がりへとつなげたいと思います。

II-サ 「時代に求められる就労継続支援A型の役割～収益性と一般就労促進～」

中崎ひとみ(社会福祉法人共生シンフォニー 常務理事) ほか 座長: 岩田克彦(労働政策研究・研修機構 客員研究員)

就労継続支援A型事業所には、一方で一定水準以上の賃金を保障し働きがいのある環境を提供すること、他方で一般就労の可能性を高める支援をすること、両面の対応が求められています。当分科会では、競争力のある商品・サービスを提供することで利用者の賃金アップに努めている事業所、施設外就労への取り組みなどを通じ利用者の一般就労の促進に努めている事業所それぞれのリーダーをお招きし、これからのA型事業所のあり方を議論します。

II-シ 「はたらく私たちが支えてくれたこと～精神疾患と付き合いながらはたらく当事者たちの声～」

神原亮介(ソーシャルフットボールクラブCitRungsTossa) 高橋はるみ(ストライドクラブ)
西岡由江(社会福祉法人ファミユ高知 障害者福祉サービスセンター ウェーブ 施設長) 原真衣(ストライドクラブ サービス管理責任者)
座長: 末安民生(一般社団法人日本精神科看護協会 会長) 寺沼古都(ストライドクラブ 施設長)

精神疾患は若い人に発症して、慢性の経過をたどることが多い。陽性症状と呼ばれる精神疾患特有の激しい症状が回復し、「病気になる前の自分」に近づくには長い時間がかかる。回復のプロセスで「働きたい」気持ちが生じて就労支援を受けている人も、病状によって思い通りに働けない人も少なくない。紆余曲折ありながら、いま働いている当事者に「働くこと」への思いや受けてきた支援について語っていただき、フロアの皆さんとも意見交換したい。
※少人数(30名程度)で行うプログラムです

II-ス 「『オリヒメ』を活用した難病患者や重度身体障害者がはたらくミライ」

吉藤健太郎(オリイ研究所 代表) 座長: 高島友和(日本財団公益事業部 国内事業開発チーム チームリーダー)

分身ロボット「オリヒメ」が神経難病など重度の障害を持つ方々のコミュニケーションをはじめ、在宅・遠隔勤務のあり方を広げています。従来型のオリヒメで広がったその可能性をさらに未来へと進化させる新型オリヒメによる就労実験のスタートが間近です。重度障害者の“はたらく”の次のステージを担う試作機の体感とともに、吉藤代表の思いと実現力に感嘆し、信じられない未来の働き方について希望を抱きましょう。

II-セ 「未来の変革者に“投資”します～『はたらくNIPPON! 計画』への招待状～」

満野厚美(NPO法人にここくらぶにここいまり 管理者) 福寿満希(一般社団法人ローランズプラス 代表理事) 青井一展(NPO法人ここからワークスおかやま 代表理事)
竹村利道(日本財団公益事業部 国内事業開発チーム チームリーダー) 座長: 福田光稀(日本財団公益事業部 国内事業開発チーム)

就労支援の情景を変えたい未来の変革者、集まれ！2015年から始まった、日本財団の新しい就労支援プロジェクト「はたらくNIPPON! 計画」。地域に根ざした新事業を、これまで30件ほど助成をし、他にも数十件の案件が進行中です。障害のある人が働くことで地域が元気になり人通りが戻る。障害のある人が都心で働く、一流料亭で働く。町の観光振興になる……。就労支援は今、変化のときです。ともに考え、構築するパートナーになりませんか？

II-ソ 「繁盛する飲食店、繁盛しない飲食店」

亀高 斉(月刊『近代食堂』前編集長) 座長: 粟野弘子(日本財団特定事業部 福祉特別事業チーム)

就労支援サービスの事業として展開することが増えてきたカフェやレストランなどの飲食店。一部に繁盛する店もありますが、その大部分は関係者がちらほらというところが多いように思います。その違いは何か？それぞれに試行錯誤しながら営業しているのですが、どうも的外れでお客様にはその魅力が感じられていないのでは？この分科会では、飲食店を数多く取材してきた雑誌『近代食堂』の前編集長で現在はフリー編集者として活躍中のプロをお迎えして、繁盛する店、しない店について学びます。